

平成26年9月20日(土)

老球の細道63号 バスケットボール誕生秘話VI
『<IFの世界>ジェームスネイスミス博士の
生涯 <その2>』

会津バスケットボール協会理事長 室井 富仁

「1970年アメリカの宇宙船アポロ11号は本当は月に着陸していなかった」という説があった。テレビの宇宙中継で流された画面は、実は特殊撮影によるニセモノで、月着陸競争で当時のソ連に遅れをとるまいとしてNASA(米航空宇宙局)が打った一世一代の大芝居に、世界中の人間が、まんまとひっかかってしまったのだという。アポロ11号のアームストロング船長が「これは一人の人間にとって小さな一歩だが人類にとっては巨大な飛躍の一歩だ」と名セリフを口にして踏みしめて見せた土は、月面ではなく、テキサスの宇宙センターの実験室の土だった……という珍説である。

もし、この珍説が本当だったら、私はバスケットボールなどに今でも血眼にはなっていなかっただろう。どこかの風来坊で一生終えていた。自堕落な高校一年生を過ごしていた私はアポロ11号人類初の月面着陸のニュースを見た。そして改心した。自分も何かに打ち込み歴史を作らなければと。それがバスケットボールだった。

人生には「IF」がたくさんある。もしネイスミスがガリ勉学生のままで、アメリカンフットボールの練習など見なかったらバスケットボールはこの世に存在しなかっただろう。

アメリカンフットボールの試合に代役で出場し(前号)、ついにマッギル大学フットボールチームのエースになってしまったネイスミスは思った「牧師の仕事ばかりでなく、人々のためになるやり甲斐のある大切な仕事がまだほかにもあるのでは」。

このことを大学の先生に話したら、YMCA トレーニングスクールに行くことをすすめられた。そしてネイスミスは大学を卒業し、神学校に入学した後 YMCA トレーニングスクールに入学することを決心し、その通りに実行した。まさに行動の男であった。

このとき、ネイスミスは「若い世代の人々がスポーツに打ち込んでいるなかで、たとえ“墮落した世界”に落ち込むことがあっても、スポーツというものは最後には必ず彼らを好ましい方向に導いていく」と確信していたという。

ネイスミスはスクールを卒業すると同時に先生となってそこに残った。そして歴史に残るバスケットボールの創案成し遂げるのである。きっかけは、体育館で行う冬季講座に来ている YMCA の学生たちが、体操中心のメニューにまったく興味を示さなくなったことである。そのために、体操種目に代わる冬季の屋内種目として、これまでにない「新しいゲーム」を考え出さなければならなくなった。面白くて、覚えるのもプレーするのも簡単で、しかも照明のついた屋内でできる“新しいゲーム”を。

実はこの時、ネイスミスはスクールの中で最もやる気のないクラスを任されていて、そのクラスをやる気にさせるために「新しいゲーム」を創案せよと上司から命じられていたのである。断りたかったらしいが、ピンチはチャンス、ハーキュリーチョイス(困難の選択)で見事やりきったのである。もし、この時ネイスミスが自分にはできないと逃げていたら、バスケットボールはこの世に存在しなかったかもしれない。そして私は風来坊としてこの世をはかなんで生きていたことだろう。まさしくネイスミスは人生の恩人であり、アポロ11号は鉄人28号より私にとっては重かった。 <また続く>